

《北九州市の教育（10年後）のあるべき姿・目指すべき姿》

【目指す子ども像"北九州っ子"】 充実した学校や地域での生活を送る中で、郷土を愛し、「生きる力」を身に付け、一人ひとりの可能性が引き出された子ども

【学校、家庭、地域】相互に高い信頼関係でつながり、北九州の子どもを見守り育てる

【学校】
時代に即した北九州らしいよりよい教育環境を提供し、子どもの教育に関わる家庭や地域の拠り所としての役割を果たす

【家庭】
すべての教育の出発点としての自覚をもち、基本的な生活習慣や生活能力、自制心や自立心などの基礎を育む責任を果たす

【地域】
地域全体で地域の宝である子どもと関わり学校や家庭を支える

本市の教育の目指すべき方向性 (何をもちて教育日本一とするか)	児童・生徒、保護者、教職員、地域住民・企業が、教育に関し、それぞれに高い満足度をもつ		『学校(教職員)、家庭(保護者)、地域(地域住民、企業)』が、一人ひとりの子どもを認め励まし、それぞれが子どもの教育に高い関心と自覚をもって関わる	
	学校では子どもの学力・体力の向上や豊かな人間性を育む取組みが行われ、家庭や地域は教育力を高め、主体的に学校運営に参加する		見える結果としては、学力検査等の指標も向上し、市民意識調査における「学校教育の充実」に対する市民の高い評価を得る	
(10年後・高い満足度を持つための)各主体の姿	児童・生徒	保護者	教職員	地域住民・企業
	学校生活や地域での生活が充実している 発達段階に応じて、今後の人生の基盤となる学力、体力、心の豊かさを備えている 学校以外での活動の経験が豊富である	教育の当事者として積極的に子どもの教育に関わる 学力、体力、心の豊かさなどから我が子の成長が実感できる 学校との信頼関係が十分培われている 障害や不登校など子どものニーズに対応した多様できめ細やかな選択肢が用意されている	児童・生徒の豊かな人間性の成長、学力・体力の向上が実感できる 児童・生徒に向き合う時間が増える 保護者や地域住民・企業との連携・協力関係が構築され、信頼関係が保たれる 児童・生徒への理解の促進と指導技術の向上が図られる	地域の子どもの健全な成長が実感できる 地域の子どもの教育に主体的に関わる 子どもの教育への関わりを通じて地域のつながりが強まる 次代を担う子どもの育成への意識が高い
委員意見	数値による比較のみで「日本一」を捉えない特徴的な取り組みの必要性		共通認識としての「日本一」の必要性	子どもや保護者の満足感・実感の重視

視点	1. 確かな学力と体力	2. 子どもの特性を伸ばす	3. 学校の力をさらに高める	4. 学校や地域の教育活動を市民の力で支える	5. 心の育ちの推進 (青少年の健全育成を含む)	6. 特別支援教育の充実
目指すべき方向性	学校、家庭、地域が真に連携し、子どもの発達段階に応じた学力・体力の育成に取り組む	子どものもつ可能性を引き出し、児童・生徒が高い目的意識をもつことができる仕組みをつくる	教員一人一人の能力、学校の組織力を高め、学校が本来もつ力を発揮させる	学校主体の教育活動から学校を軸とした教育を実現できる地域をつくる	すべての人が、人を思いやる心をもち、ルールやマナーを守ることが当たり前の地域	障害の有無にかかわらず、すべての人が生き生きと活躍できる(社会)
	基礎的な学力、体力の向上のための取り組みの推進、継続的な授業改善 学力向上プロジェクトの推進 体力向上プロジェクトの推進 ほか 基本的生活習慣や家庭学習の定着など、家庭の教育力の向上 保護者の理解促進(声の届かない保護者への一層の働きかけ) ほか 食育を通じた基本的生活習慣の定着、健全な心身の育成 食育推進会議において具体的内容を議論 子どもの教育への全市民的な参画	児童・生徒が高い目的意識をもつ仕組みとして、特色ある学校づくりを推進 部活動の強化(教師の配置等) 小中一貫的教育の検討 ほか 学校の自由選択性の議論にも波及 北九州の特性を活かした環境やモノづくり、国際理解教育の推進 環境やモノづくりなど北九州の特性を活かした教育 ほか 勤労観や職業観の育成、キャリア教育の充実 学校以外での活動も視野に入れた取り組み スポーツ、文化、芸術など本物に触れる機会をふやす ほか	教職員が児童・生徒に向き合う時間をさらに増やし、一人一人の教員が優れた能力を発揮できる体制を構築する 学校問題対応支援体制の充実 優秀な教員を確保するための仕組みづくり ほか 学校長を中心とした学校の経営力の強化、組織力の向上 校長の裁量権の拡大 ほか 保護者や地域からの支援を得るための仕組みづくり 児童・生徒の活動意欲を高める拠点としての学校づくり 学校図書館などの充実	学校の教育活動を積極的にオープンにし、地域住民をまきこんだ学校運営を実現する 学校の積極的なオープン化(施設、情報) ほか 既存の制度を積極的に活用し、できる地域からできるレベルの取り組みを推進する 学校評議員制度や社会教育主事など既存制度・人材の積極的活用 ほか 学校を拠点とした活動に幅広い市民の参加を促す仕組みづくりを進める スクールヘルパー制度の充実など地域の人材の活用 ほか	家庭での教育、幼稚園、保育所、学校、地域での経験を通じて自尊心、他を思いやる心を醸成する仕組みの実現 不登校・いじめにきめ細やかに対応する社会の実現 教室の規律保持(問題行動を繰り返す児童・生徒に対する毅然とした指導とサポート) 有害情報などにより、子どもたちを危険にさらさない、危険に直面したときに適確に対応できる子どもの育成、家庭の支援 社会全体で子どもを見守る体制の構築	共生社会の形成に向け、障害のある子どもを包容するとともに、すべての子どもたちの健やかな成長に応える教育の実現 障害のある子どもを包容する教育(インクルーシブな教育)の推進に当たって、障害のある子どもの地域生活を支援していく関係機関との連携の充実 特別支援教育コーディネーター等の人材確保と専門性の向上 就学前からの情報の引継ぎ ほか 教職員、保護者、市民、関係機関への理解啓発の推進
委員意見	基本的生活習慣の定着の重視 基礎的な学力・体力の習得	北九州らしさ、北九州への誇りを意識した人材育成 生きる力をもつ、自ら課題を見つけ探求する子どもの育成 今まで、又ほかとは違う特色ある学校づくり	教員が子どもと向き合う時間とゆとり確保	学校・保護者・地域の問題共有、地域全体の教育力の向上	心・道徳教育の重視	支援が必要な児童・生徒のための多様な選択肢の必要性